

九州・山口県の火山活動 (令和7年6月1日～7月22日)

令和7年7月22日
福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

今回のポイント

- ・霧島山(新燃岳) 6/22 7年ぶりに噴火を観測 以降も噴火継続
6/23 噴火警戒レベル3に引上げ
- ・阿蘇山 7/4 噴火警戒レベル2に引上げ

霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル3(入山規制)

新燃岳火口から概ね3kmの範囲で警戒(大きな噴石:火口から概ね3kmまで、火砕流:火口から概ね2kmまで)。

- ・6/22に新燃岳火口で噴火が発生(2018年6月27日以来)。6/26以降も噴火を観測。
- ・6/23に火山ガス(二酸化硫黄)の放出量が急増していることを確認し、噴火警戒レベルを3に引上げ。
- ・GNSS連続観測では、霧島山を挟む一部の基線で、2025年3月頃から、霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる。

阿蘇山

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

中岳第一火口から概ね1kmの範囲で警戒(大きな噴石・火砕流)。

- ・7/4から火山性微動の振幅が増大し大きな状態となったが、7/7以降は小さな状態となっている。
- ・その他の観測データに活動の高まりを示す変化は認められない。

噴火警報及び噴火予報の発表状況 (令和7年7月22日現在)

火山名 は噴火警戒レベル運用火山

▲噴火警報発表中の火山

▲噴火予報発表中の火山(レベル運用火山)

△噴火予報発表中の火山(レベル対象外火山)

桜島

噴火警戒レベル3

7/5-7/18:
解説情報 頻度を上げて発表

薩摩硫黄島

噴火警戒レベル2

口永良部島

噴火警戒レベル3

6/11:解説情報(臨時)発表

6/11:噴火警戒レベル2→3

諏訪之瀬島

噴火警戒レベル2

雲仙岳

鶴見岳・伽藍岳

九重山

阿蘇山

噴火警戒レベル2

7/4:解説情報(臨時)発表

7/4:噴火警戒レベル1→2

霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)

霧島山(大幡池)

霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル3

6/22:7年ぶりに噴火発生

6/23:噴火警戒レベル2→3

霧島山(御鉢)

0 10 50 100 km

霧島山（新燃岳）

噴火警戒レベル3（入山規制）

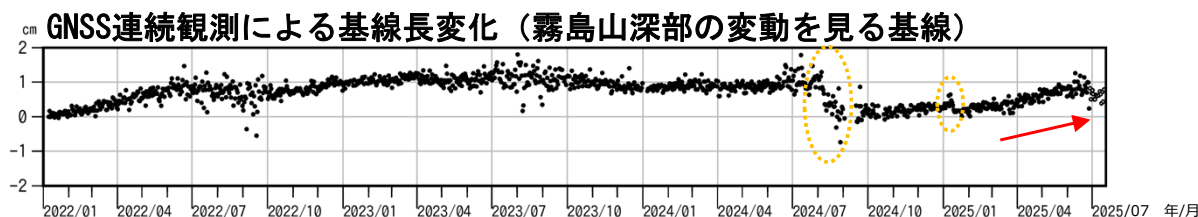
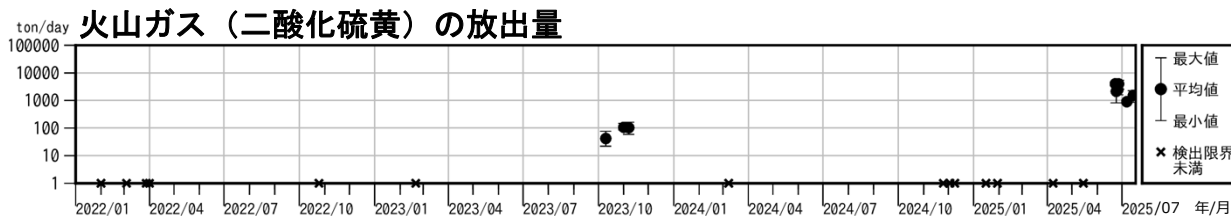
6/22：噴火を観測（2018年6月27日以来）

6/23：噴火警戒レベル2→3（入山規制）

- 6月23日の火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は4,000トンを観測し、前回（5月15日は検出されず）から急増。
- GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線一部の基線で、3月頃から霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる。

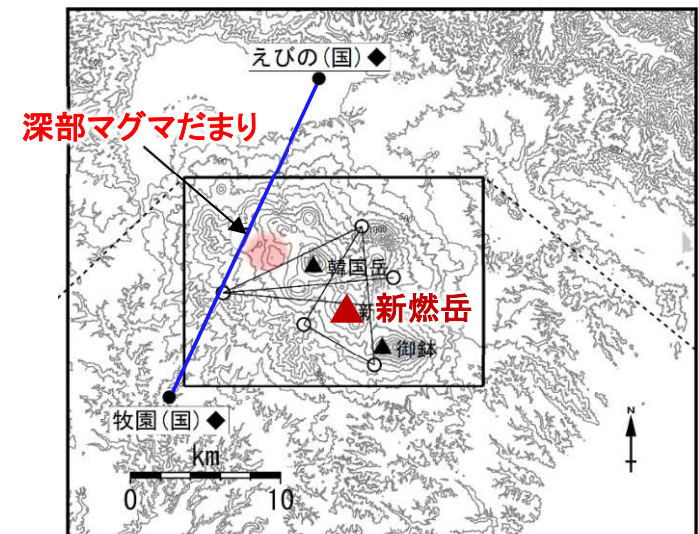


火山活動がさらに高まった状態と判断し、**6月23日18時30分に噴火警戒レベルを2から3に引上げ。**



※橙色破線内の変化は、日向灘の地震（2024年8月8日、2025年1月13日）による変動

2022年1月1日～2025年7月17日



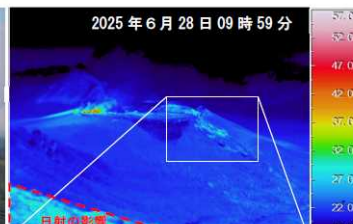
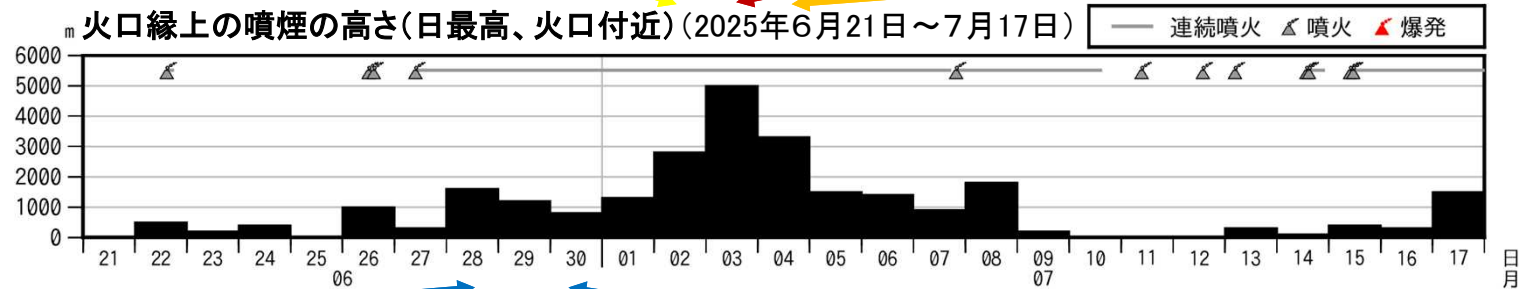
GNSS連続観測点と基線

GNSS連続観測（左図）の基線を赤線で示す

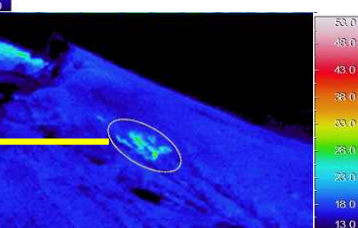
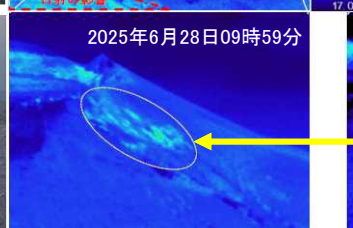
霧島山(新燃岳)

■ 噴火活動

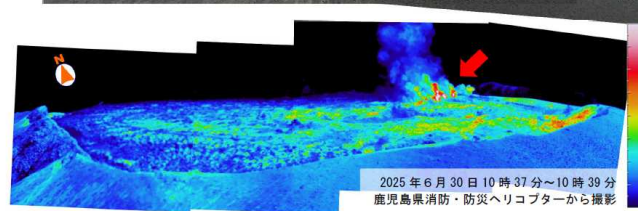
- 6月22日15時25分頃に噴火が発生。噴火は2018年6月27日以来。
- 噴火は断続的に発生し、7月3日には有色の噴煙が最高で火口縁上5,000mまで上がった。



6/28 韓国岳から観測
西側斜面の割れ目付近
で地熱域が拡大



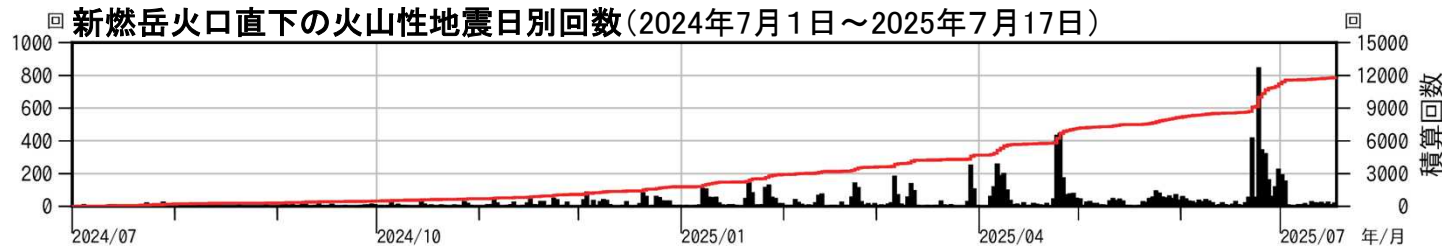
6/30 上空から観測
火口内の北東側に列状
に並んだ複数の火孔を
確認



霧島山(新燃岳)

■ 地震、微動

- 2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返している。
- 火山性微動も時々発生。

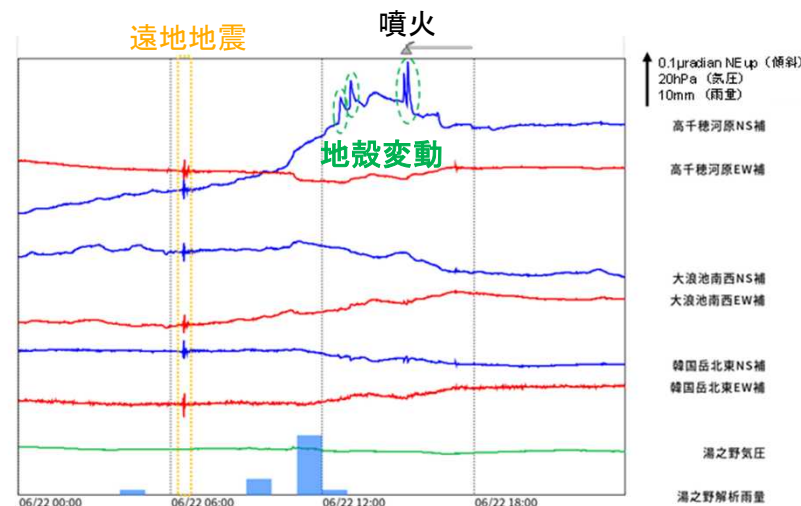


■ 火山ガス(二酸化硫黄)放出量

- 6月22日の噴火発生以降、火山ガス(二酸化硫黄)の1日あたりの放出量は、900～4,000トンと概ね多い状態。

■ 地殻変動

- 新燃岳周辺の傾斜計では、山体の膨張や収縮を示す地殻変動を時々観測。
- GNSS連続観測では、霧島山を挟む基線一部の基線で、3月頃から霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる。



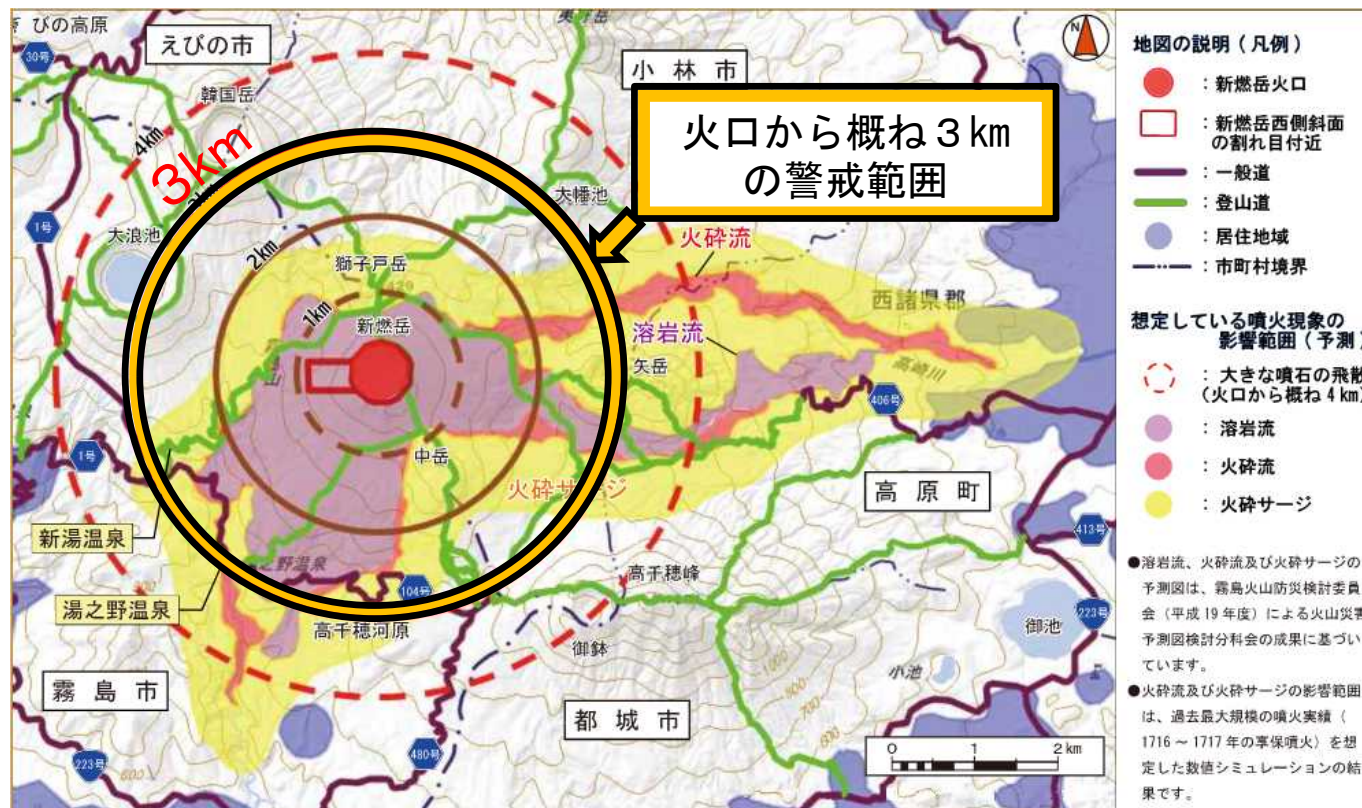
傾斜計による地殻変動(分値)(6月22日00時～6月23日00時)

霧島山（新燃岳） 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3（入山規制）

警戒事項等

弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね3 kmまで、火砕流が概ね2 kmまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね3 kmの範囲では警戒してください。



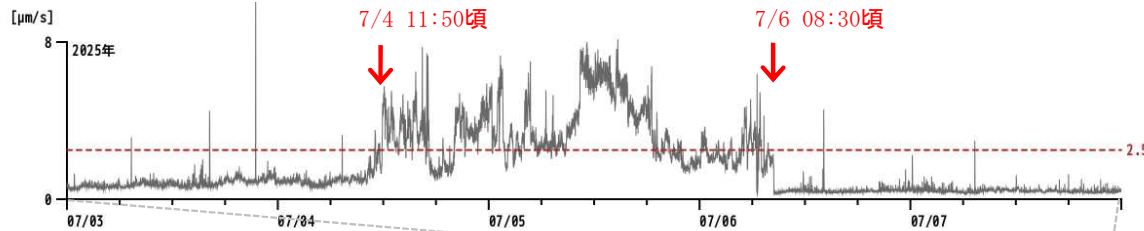
・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

・2011年と同様に爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。

・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

阿蘇山 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

火山性微動の1分間平均振幅(中岳西山腹:南北成分、2025年7月3日~7日)



7/4 12:25 :
火山の状況に関する解説情報(臨時)発表

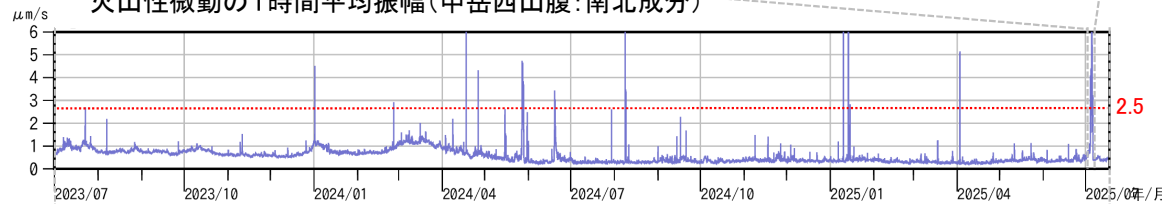
7/4 13:00 :噴火警戒レベル1→2



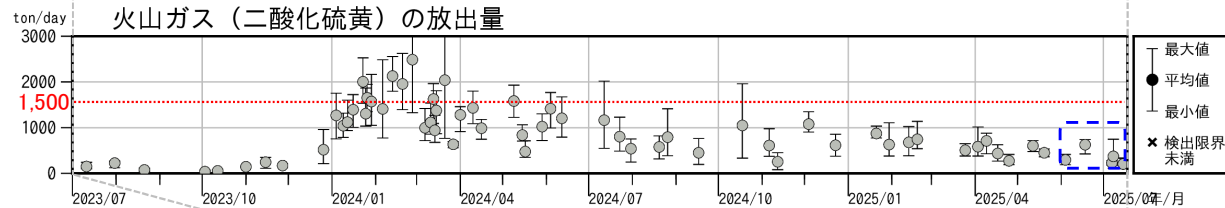
阿蘇山

- 火山性微動の振幅は、7月4日11時50分頃から増大し大きな状態となるが、7月6日08時30分頃からは小さな状態で経過。
- 火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、6月以降、1日あたり200~600トンと少ない状態(青破線内)で経過。
- GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線において、2024年10月頃から縮みの傾向(青矢印)がみられている。

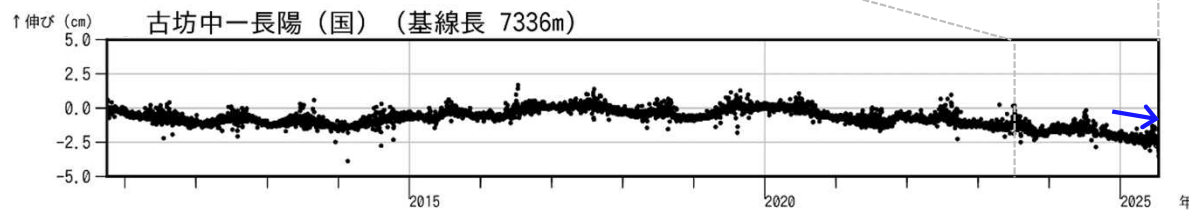
火山性微動の1時間平均振幅(中岳西山腹:南北成分)



火山ガス(二酸化硫黄)の放出量

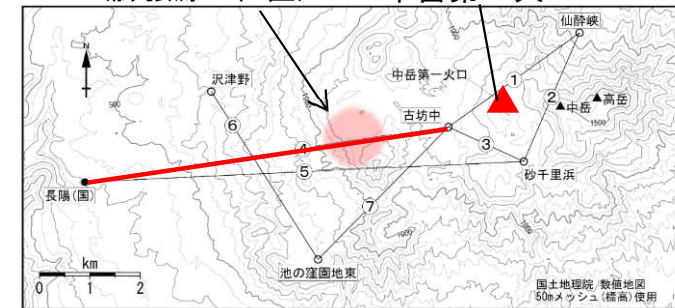


火山性微動の1時間平均振幅及び火山ガス(二酸化硫黄)放出量
(2023年7月~2025年7月17日)



GNSS連続観測による基線長変化
(2010年10月~2025年7月17日)

深部のマグマだまり
(膨張源の位置) 中岳第一火口



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院

GNSS連続観測点と基線

GNSS連続観測(左図)の基線を赤線で示す。

阿蘇山

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)



阿蘇山 中岳第一火口内の状況(左:7月4日、右:7月3日、阿蘇火山博物館提供の火口カメラAによる)

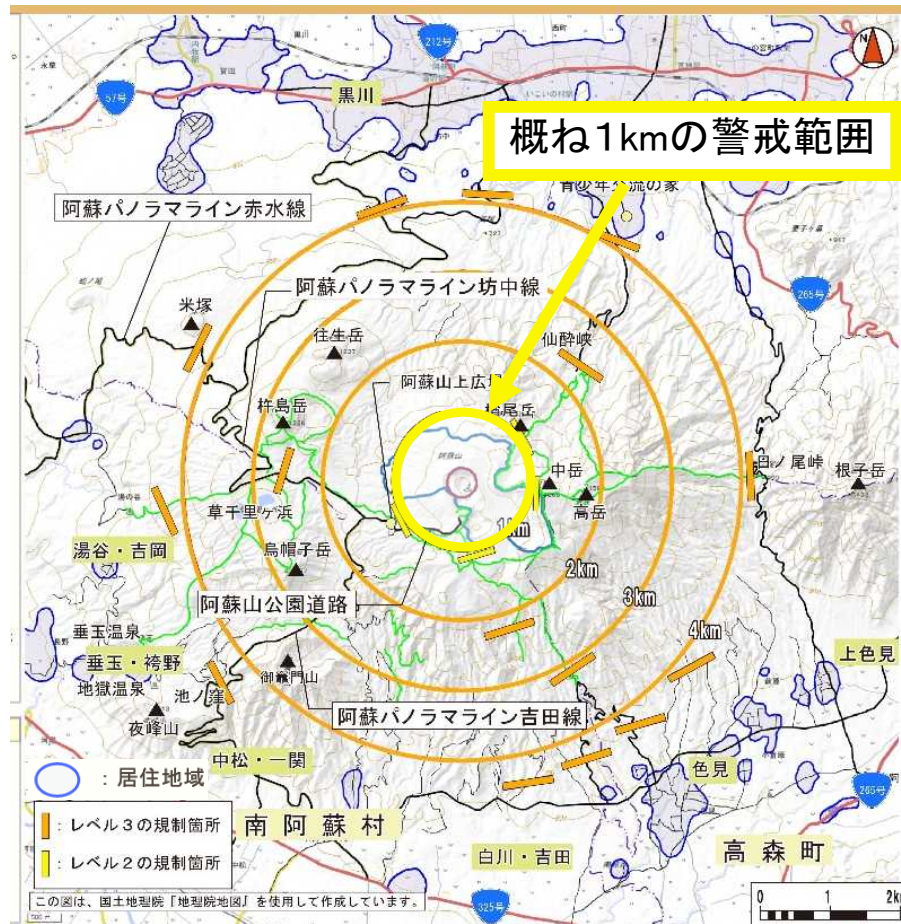
- 阿蘇火山博物館提供の火口カメラでは、7月4日の火山性微動の振幅増大に伴い、それ以前と比べて湯だまり内において噴湯現象が活発化していることを確認。

阿蘇山 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

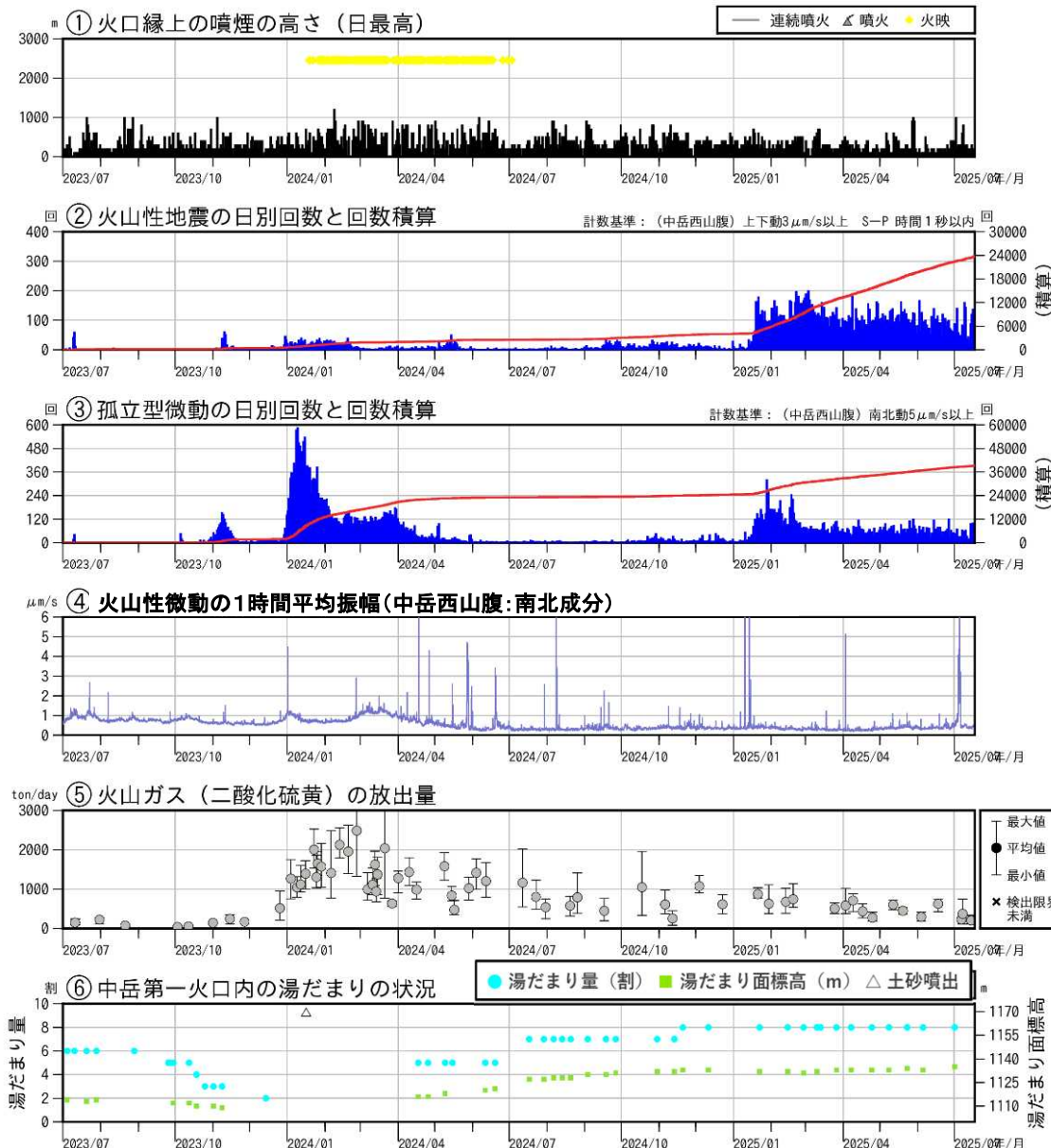


- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・火山ガスに注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

以下、参考資料 (火山の活動状況、用語集など)

阿蘇山 活動状況1 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

＜2025年6月から7月17日までの状況＞
(7月の回数等は速報値)



噴煙等の状況

- 中岳第一火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上1,000mまで上昇(7月2日)。

火山性地震、孤立型微動の状況

- 1月中旬頃から増加した状態が続いている。

火山性微動の振幅の状況

- 火山性微動の振幅は、小さな状態で経過していたが、7月4日11時50分頃から増大し大きな状態となった。7月6日08時30分頃からは小さな状態で経過。

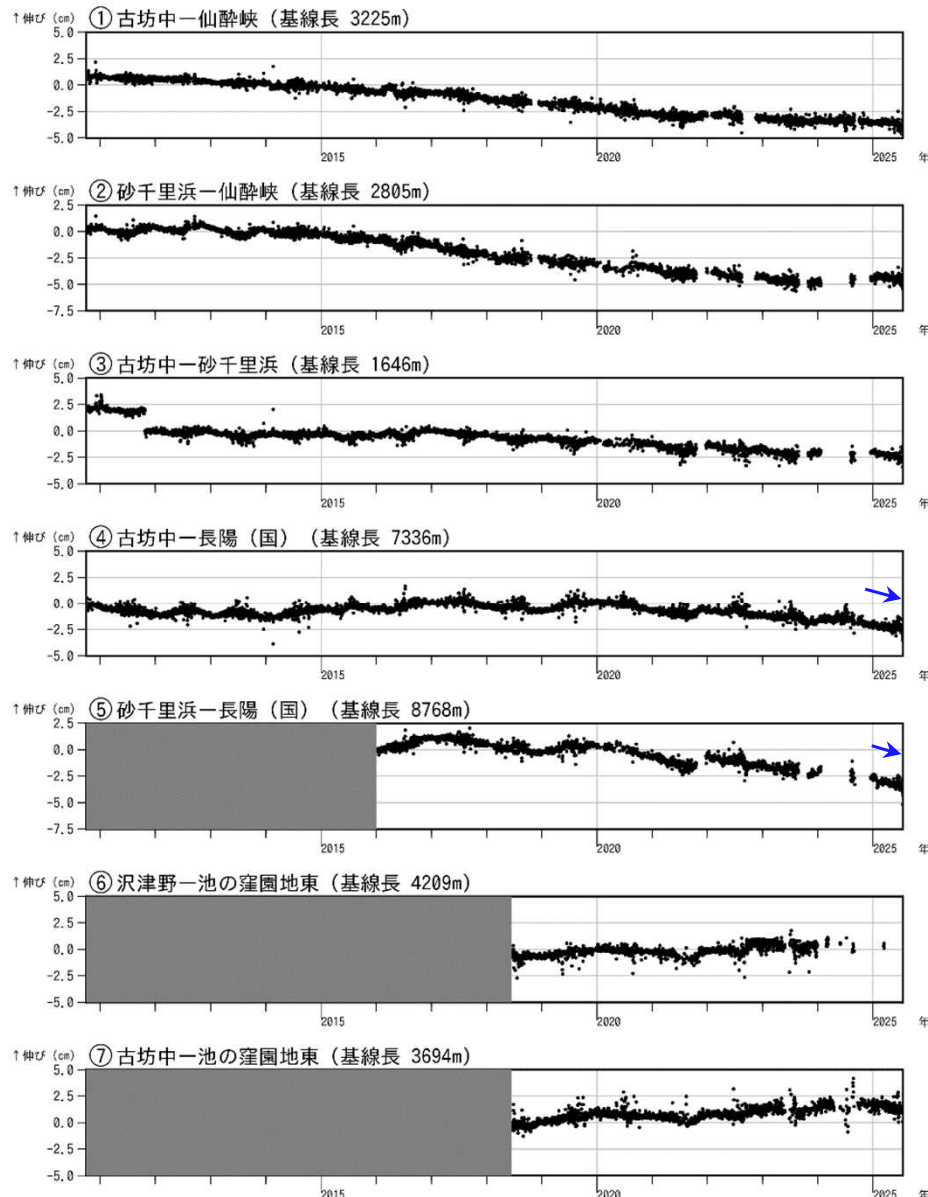
火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- 1日あたりの放出量は200～600トンと少ない状態。

中岳第一火口湯だまりの状況

- 7月に実施した現地調査では、中岳第一火口内に緑色の湯だまりを確認。湯だまり量は約8割と前月(6月:約8割)と同程度であった。

阿蘇山 活動状況2

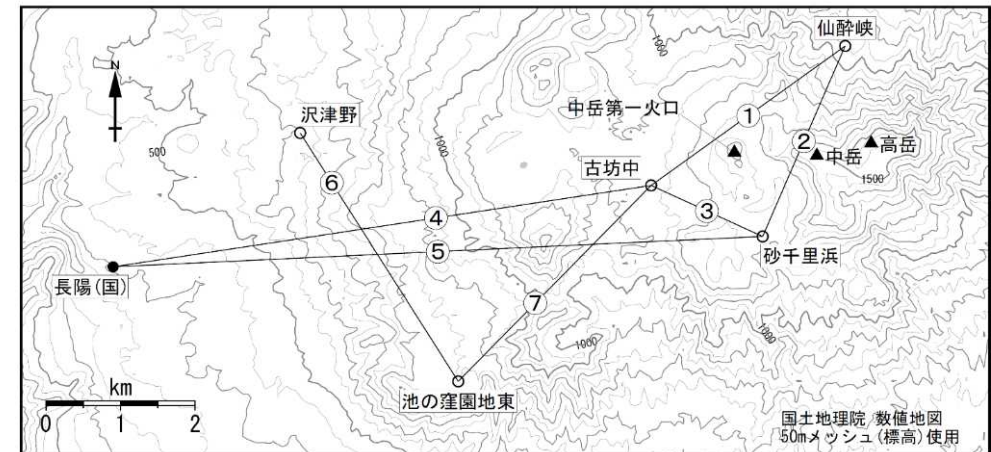


阿蘇山 GNSS連続観測による基線長変化 (2010年10月～2025年7月17日)

<2025年6月から7月17日までの状況>

地殻変動の状況

- GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線において、2024年10月頃から縮みの傾向がみられている(青矢印)。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院

阿蘇山 GNSS連続観測点と基線番号

- 基線の空白部分は欠測を示。
 - 2016年4月16日以降の基線長は、平成28年(2016年)熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正している。
 - 2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更している。
- (国): 国土地理院

阿蘇山 噴火警戒レベル判定基準

阿蘇山の噴火警戒レベル判定基準

令和6年3月14日

レベル	当該レベルへの引上げの基準	当該レベルからの引下げの基準
	【火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性】 次のいずれかが観測された場合 ①火山性微動の振幅の大きな状態（中岳西山腹観測点南北動成分で1分間平均振幅 $2.5 \mu\text{m/s}$ 以上）が1時間以上継続 ②火口内の土砂噴出の活発化（高さ約30m以上） ③規模の大きな火山性微動（現地で震度1相当以上）の発生 ④以下の現象が複数項目観測された場合 2 [A]火山性微動の振幅のやや大きな状態（中岳西山腹観測点南北動成分で1分間平均振幅 $1.5 \mu\text{m/s}$ 以上）が1時間以上継続 [B]火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量が概ね1,500トン以上 [C]山体膨張を示す地殻変動（GNSS等で観測される比較的緩やかな地殻変動） [D]中岳火口（中岳第一火口以外）で地熱域の発現	左記の全項目のうち、④の項目[C][D]以外がいずれも認められない状態が概ね1ヶ月続いたときを基本とする。活動状況によってはレベル引下げの期間を短縮（最短3日程度から活動を踏まえた上で検討を開始[※]）する。 ※「判定基準の解説」内の4. 噴火警戒レベルの判定基準とその考え方を参照のこと
	【火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生】 ⑤ごく小～小噴火の発生（大きな噴石飛散、火砕流等が火口から概ね1km以内にとどまる程度、火口近傍に降灰する程度のごく小噴火も含む）	

阿蘇山 噴火警戒レベル判定基準（レベル2のみ抜粋）

霧島山(新燃岳) 活動状況1

＜2025年6月から7月17日までの状況＞

(7月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

- 新燃岳火口では、6月は有色の噴煙が最高で火口縁上1,600mまで上昇。7月2日以降、噴火に伴う噴煙量の一時的な増大が時々観測され、7月3日には有色の噴煙が最高で火口縁上5,000mまで上昇。
- 新燃岳西側斜面の割れ目付近では白色の噴気の高さは期間を通して100m以下で経過。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

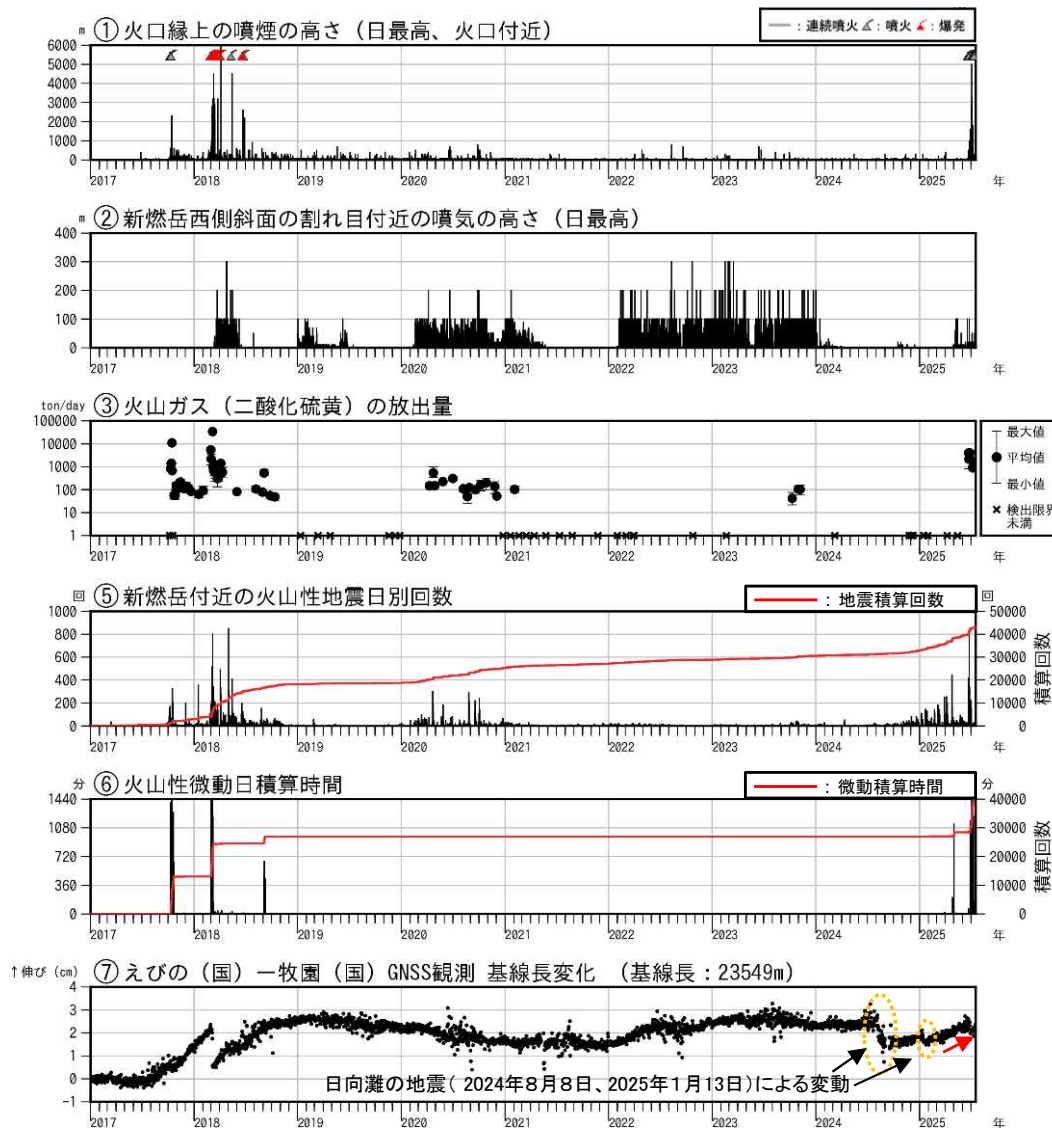
- 6月23日に実施した現地調査では、1日あたりの放出量4,000トン(前回5月15日:検出されず)を観測し、急増していることを確認。
- その後の現地調査では、1日あたりの放出量は900～4,000トンと概ね多い状態で経過。

火山性地震・火山性微動の状況

- 2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返していたところ、6月22日から急増し、非常に多い状態で経過。新燃岳付近の火山性地震の6月の合計回数は3,076回で、前月(5月:1,021回)と比較して増加。
- 6月22日以降、火山性微動が断続的に発生。

GNSS連続観測(広域)の状況

- 3月頃から、霧島山を挟む一部の基線で霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる(赤矢印)。

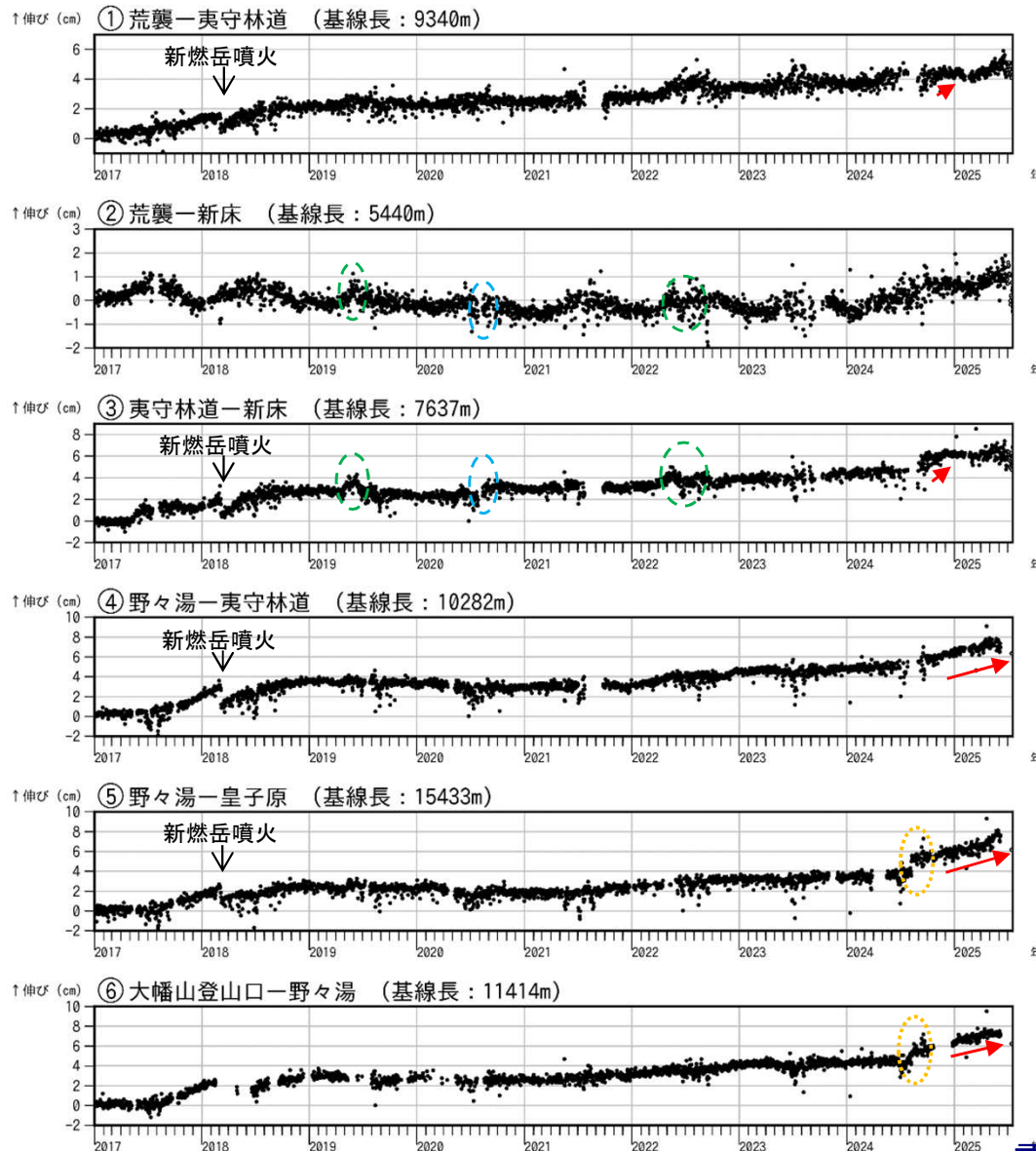


霧島山(新燃岳) 火山活動経過図

(2017年1月～2025年7月17日)

・新燃岳南西観測点の機器障害により、新燃西(震)観測点、霧島南(震)観測点及び高千穂河原観測点で計数している期間がある。

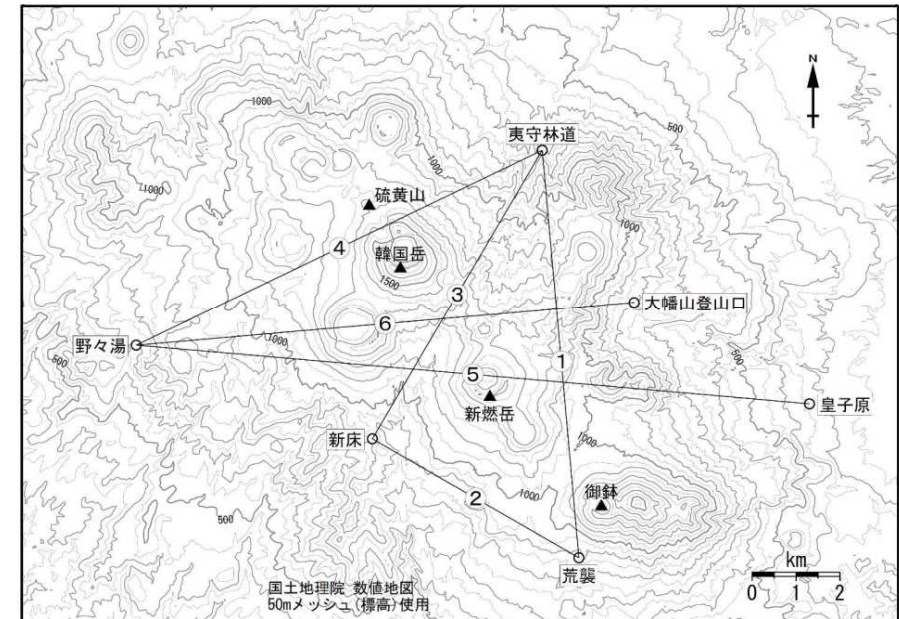
霧島山(新燃岳) 活動状況2



＜2025年6月から7月17日までの状況＞

GNSS連続観測(狭域)の状況

- 2024年11月頃から、霧島山を挟む一部の基線で新燃岳付近の地下の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる(赤矢印)。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院

霧島山(新燃岳) GNSS連続観測点と基線番号

霧島山(新燃岳) GNSS連続観測による基線長変化
(2017年1月～2025年7月17日)

- 基線の空白部分は欠測を示す。
- 緑色の破線内の変化は、新床観測点周囲の環境の変化に伴う影響と考えられる。
- 水色の破線内の変化は、新床観測点のセンサー台交換による局所的な変動による影響と考えられる。
- 橙色の破線内の変化は、2024年8月8日の日向灘の地震による変動。

桜島 活動状況1

7/5～：火山の状況に関する解説情報発表

<2025年6月から7月17日までの状況>

(7月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

- ・南岳山頂火口では、噴火が13回(6月:2回、7月:11回)発生。このうち爆発は6回(6月:2回、7月:4回)。噴煙は最高で火口縁上3,500m以上まで上昇。弾道を描いて飛散する大きな噴石は、最大で5合目(南岳山頂火口より約1,400m)まで飛散。夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・昭和火口では、噴火及び爆発の発生はなし。火映の観測はなし。

降灰の状況

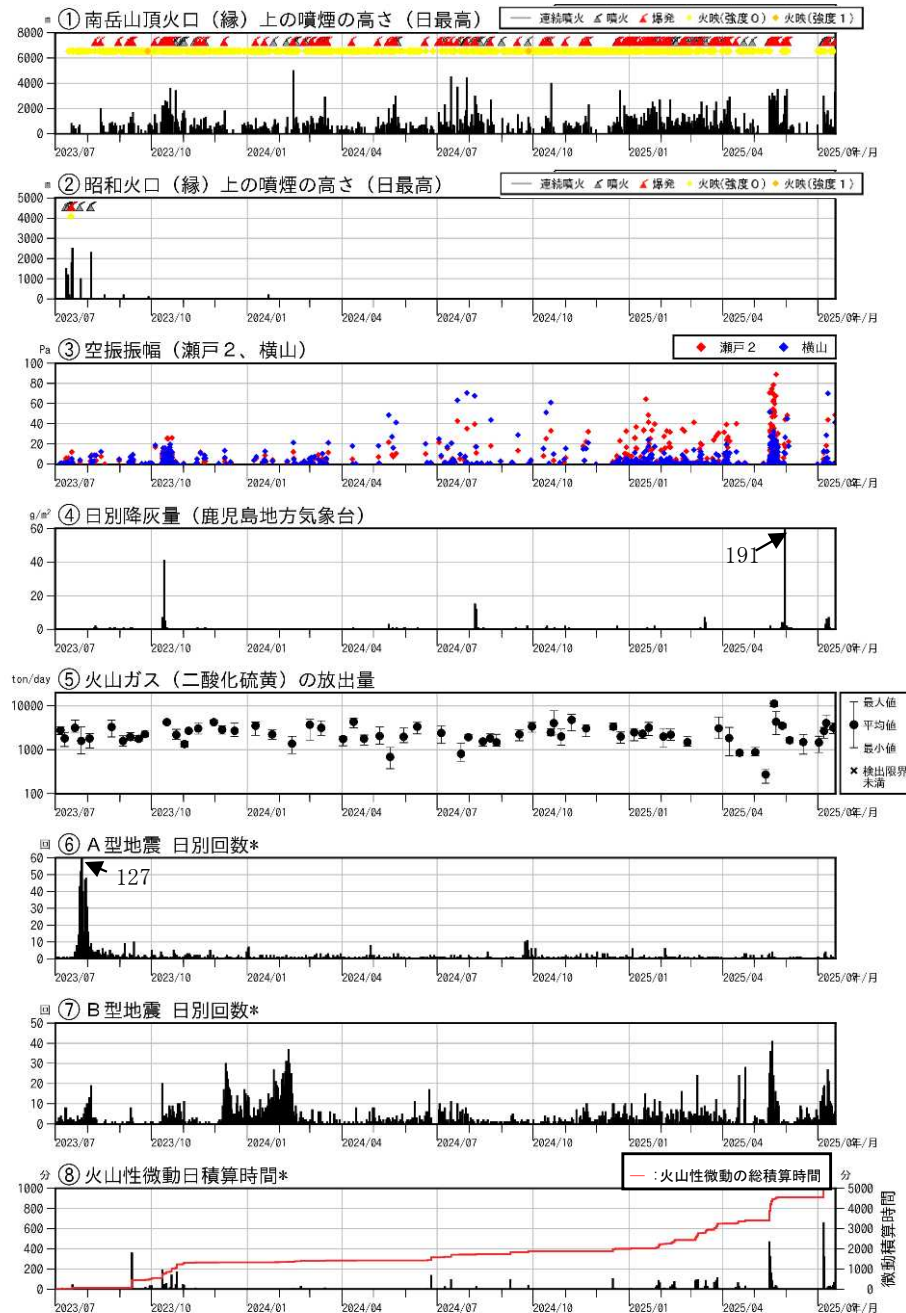
- ・鹿児島地方気象台(東郡元)では、6月に月合計 $4\text{g}/\text{m}^2$ (降灰日数6日)の降灰を観測。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- ・1日あたりの放出量は1,500～4,000トン。
- ・2022年7月以降、概ね多い状態で経過。

火山性地震・火山性微動の状況

- ・火山性地震は少ない状態で経過。地震回数は、6月88回、7月200回。
- ・火山性微動は主に噴火に伴い発生。6月の月合計継続時間は0.6分で、前月(5月:19時間14分)と比較して減少。



←桜島 火山活動経過図

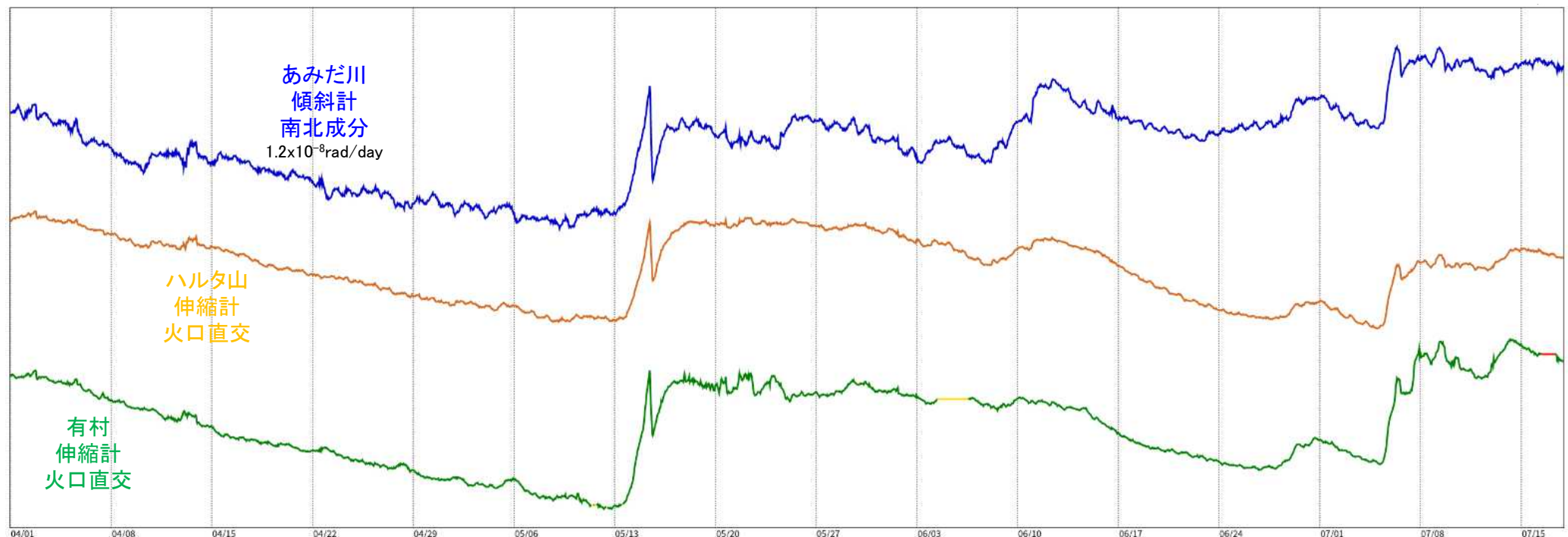
(2023年7月～2025年7月17日)

桜島 活動状況2

傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況

- ・6月中旬頃から山体の収縮(沈降)に伴う変化がみられた。
- ・7月5日から山体が膨張(隆起)した状態で経過している。

150nstrain
↑ 火口直交方向伸張
150nradian
火口方向UP



桜島 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況(2025年4月1日～7月17日)

※各観測点のデータは潮汐補正を行っている。

※図の作成には、大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学のハルタ山観測坑道の観測データを使用している。

※あみだ川観測点は北側が下がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示している。

長期的に北側が上がる傾斜変動($1.2 \times 10^{-8} \text{rad/day}$)がみられていることから、これを補正したうえで表示している。

桜島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒事項

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

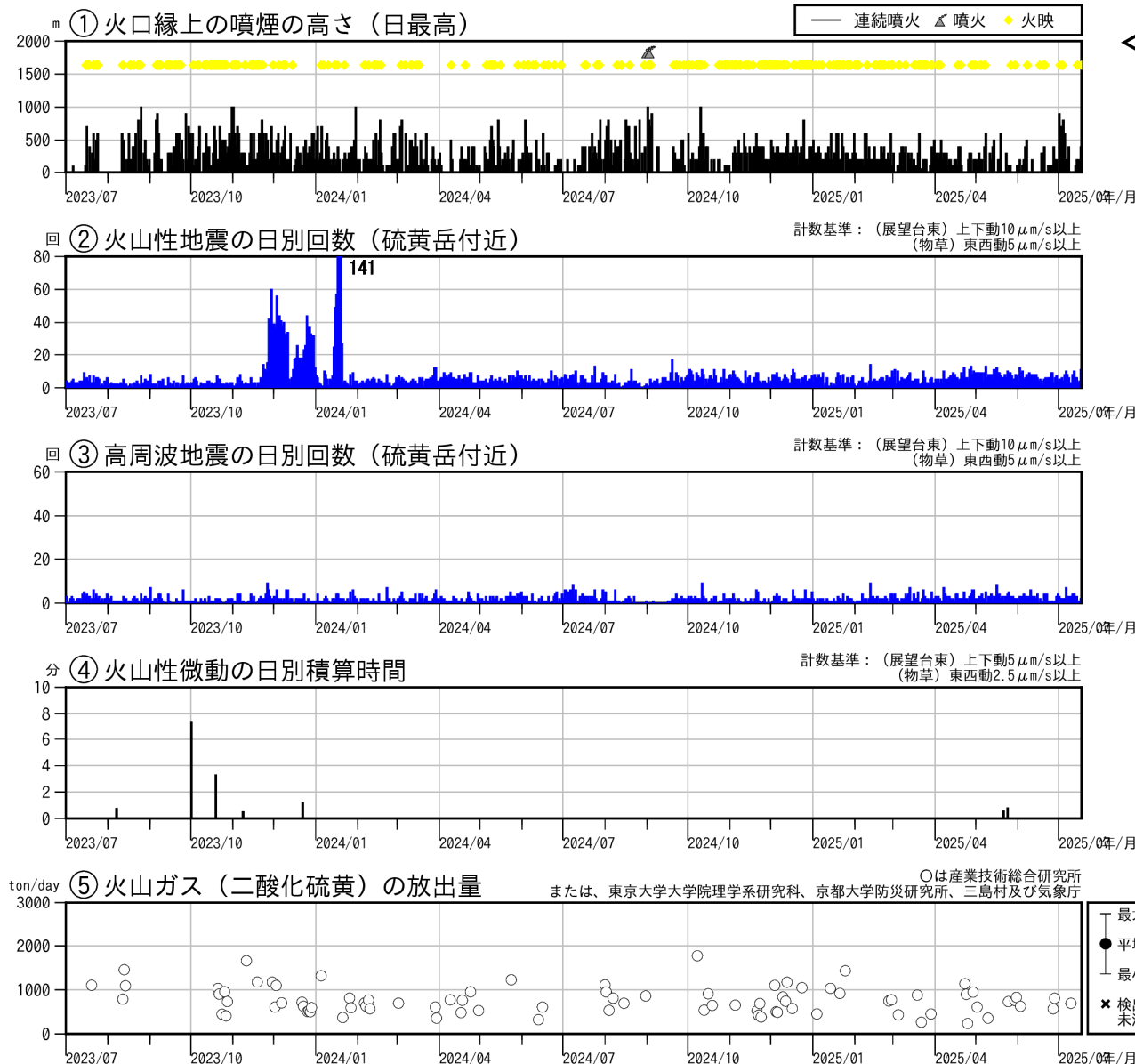


昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2km

- ・風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
- ・爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。
- ・降灰状況により、降雨時に土石流が発生する可能性があるので留意してください。

薩摩硫黄島 活動状況

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)



< 2025年6月から7月17日までの状況 >
(7月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

- ・硫黄岳火口で、白色の噴煙が最高で火口縁上900mまで上昇。
- ・硫黄岳火口で、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

火山性地震等の状況

- ・火山性地震は少ない状態で経過（6月：194回、7月：105回）。このうち、高周波地震の月回数は6月72回、7月42回。
- ・火山性微動は観測なし。

火山ガス（二酸化硫黄）の状況

- ・1日あたり600～800トンで経過。
- ・長期的には1日あたり1,000トン前後の状況が継続。

薩摩硫黄島 火山活動経過図(2023年7月～2025年7月17日)

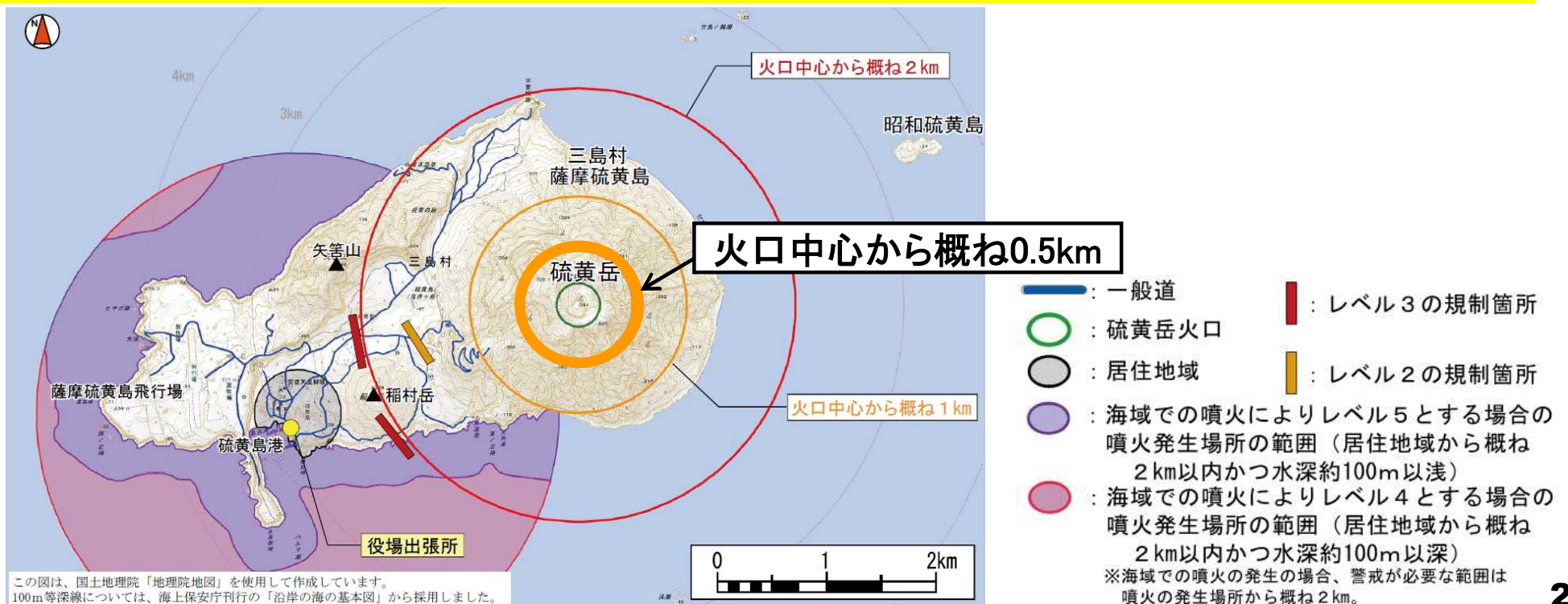
薩摩硫黄島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

硫黄岳火口中心から概ね0.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。



口永良部島 活動状況1

6/11 : 火山の状況に関する解説情報(臨時)発表

6/11 : 噴火警戒レベル2→3(入山規制)

<2025年6月から7月17日までの状況>

(7月の回数等は速報値)

噴煙の状況

- 新岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上300mまで上昇。
- 古岳火口では、監視カメラで火口縁を越える噴煙は観測されなかった。
- 6月23日～25日の山麓からの現地調査において、古岳火口から火口縁をわずかに超える程度の白色の噴煙を確認。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

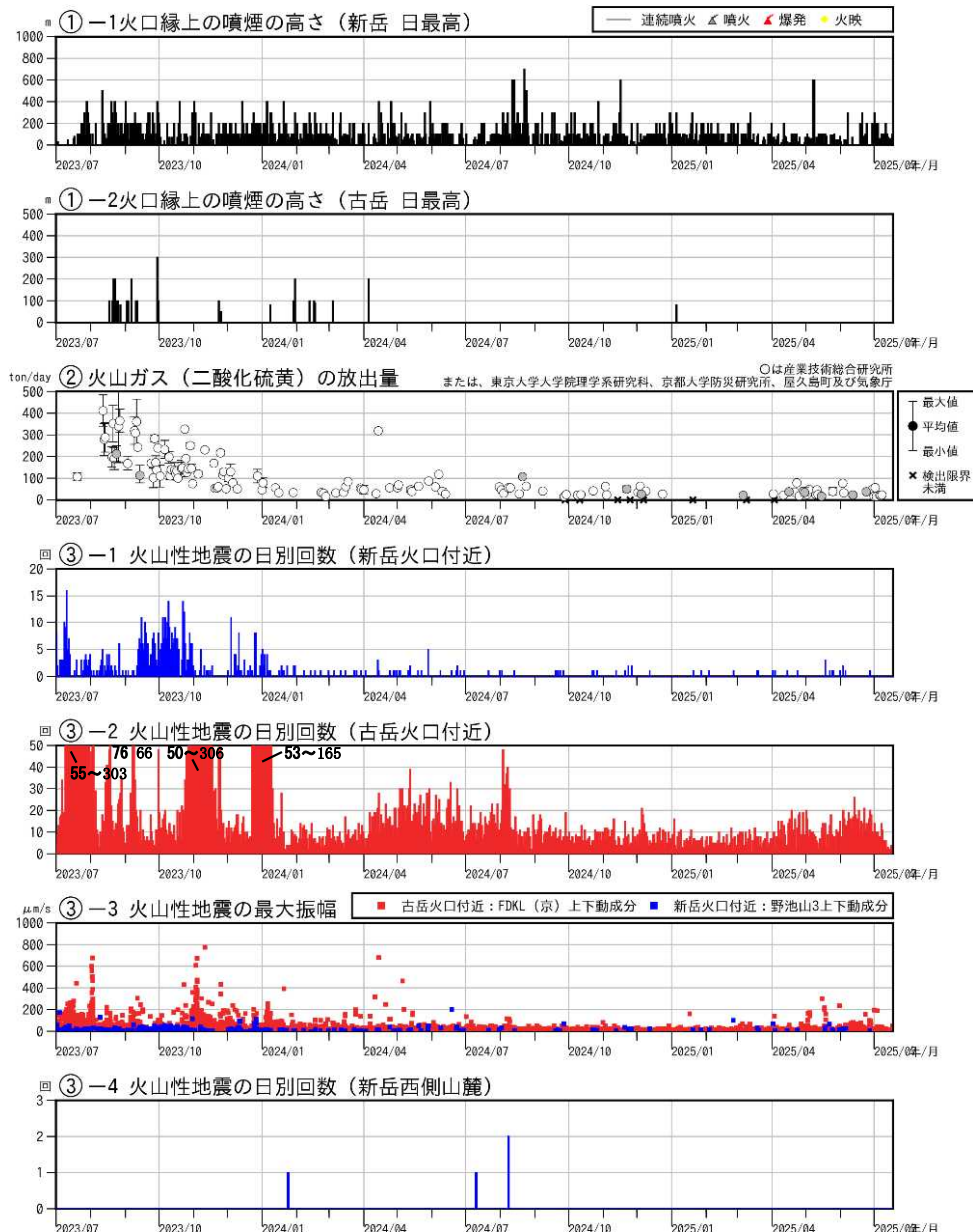
- 1日あたり20～80トンと少ない状態。
- 2024年8月以降は概ね少ない状態。

火山性地震の状況

- 4月上旬から山体の浅いところで地震活動が活発化。古岳火口付近を震源とする火山性地震が多い状態。新岳火口付近においても地震活動が継続。
- 振幅の大きな火山性地震はなし。
- 新岳西側山麓付近の地震は、観測なし。

表 地震回数(単位:回)

	4月	5月	6月	7月 (～17日)
古岳火口付近	311	279	434	114
新岳火口付近	4	7	4	0



口永良部島 火山活動経過図(2023年7月～2025年7月17日)

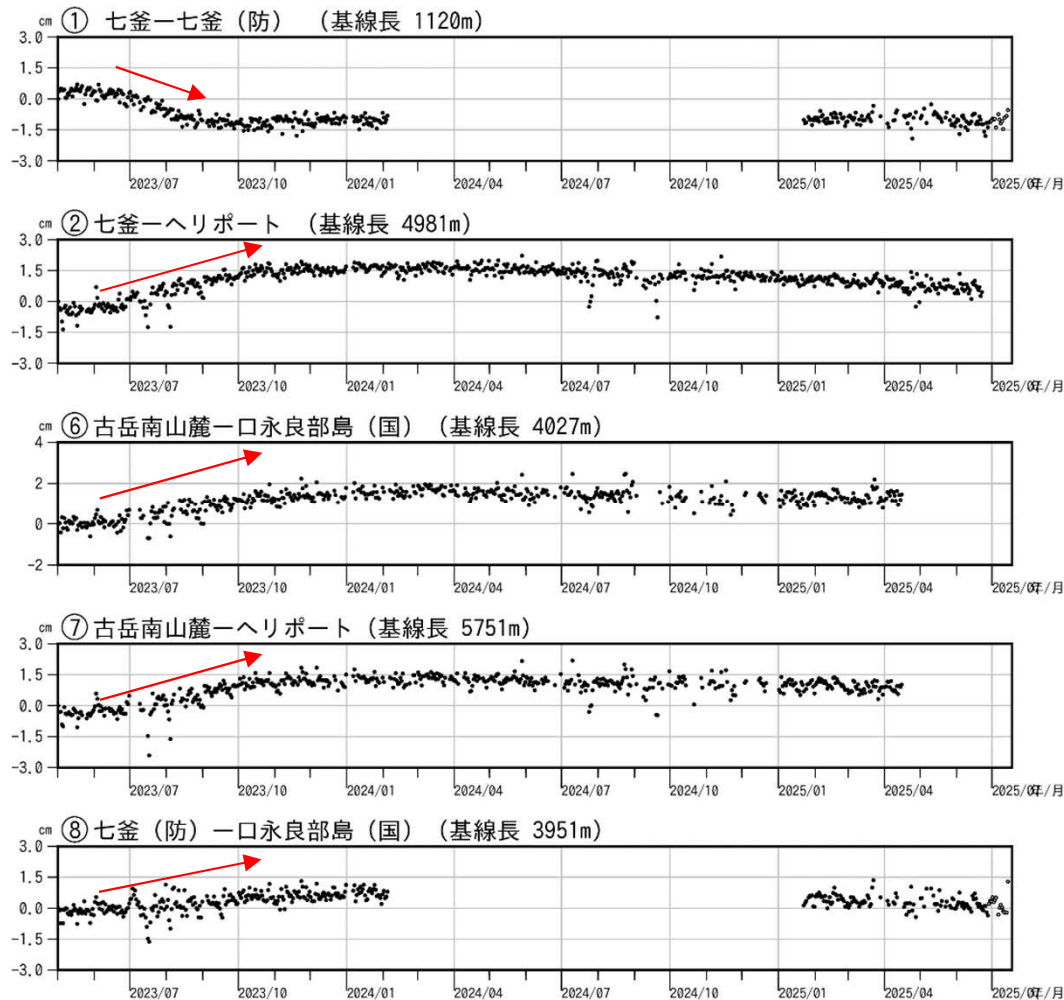
②火山ガス(二酸化硫黄)の放出量については、東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁が観測を実施。

口永良部島 活動状況2

＜2025年6月から7月17日までの状況＞

GNSS連続観測の状況

- 2023年6月下旬頃から同年10月頃にかけて古岳付近の膨張を示す変動が観測されており(赤矢印)、現在も膨張した状態が維持。



口永良部島 GNSS連続観測による基線長変化
(2023年5月～2025年7月17日)

GNSS連続観測点と基線番号
GNSS基線長図(左図)の基線を赤線で示す。

口永良部島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒事項

新岳火口及び古岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。
また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

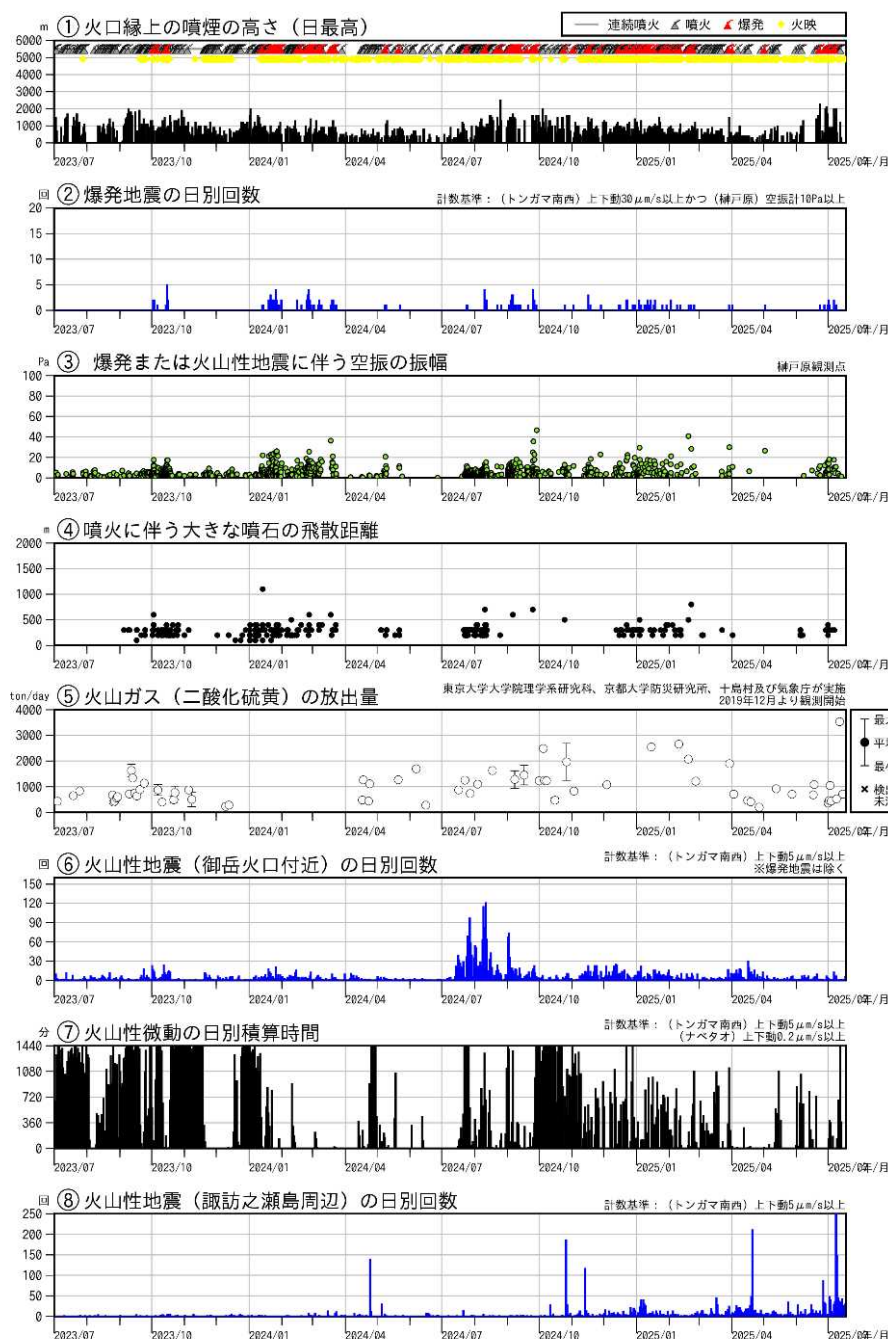


- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

諏訪之瀬島 活動状況1

<2025年6月から7月17日までの状況>

(7月の回数等は速報値)



噴煙等の状況

- 噴火に伴う噴煙は、最高で火口縁上2,300m(6/23)まで上昇。
- 爆発回数は、6月3回、7月6回。
- 弾道を描いて飛散する大きな噴石は、火口中心から最大で約400mまで飛散。
- 御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- 7月12日には1日あたり3,500トンと非常に多かったが、その他は1日あたり400~1,000トンで経過。

火山性地震等の状況

- 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は6月は368回と少ない状態。7月8日から9日にかけて一時的に増加し、震度1以上を観測する地震が28回発生(最大震度3)(7月8日1,088回、7月9日149回、7月1,677回)。中長期的には、2024年10月頃から増加傾向がみられている。
- 御岳火口付近の火山性地震(爆発地震を除く)は少ない状態(6月90回、7月46回)。
- 火山性微動は主に噴火に伴い発生。

←諏訪之瀬島 火山活動経過図

(2023年7月~2025年7月17日)

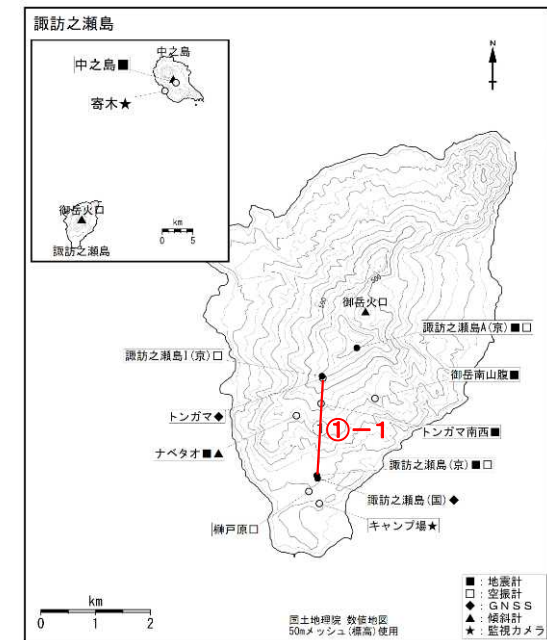
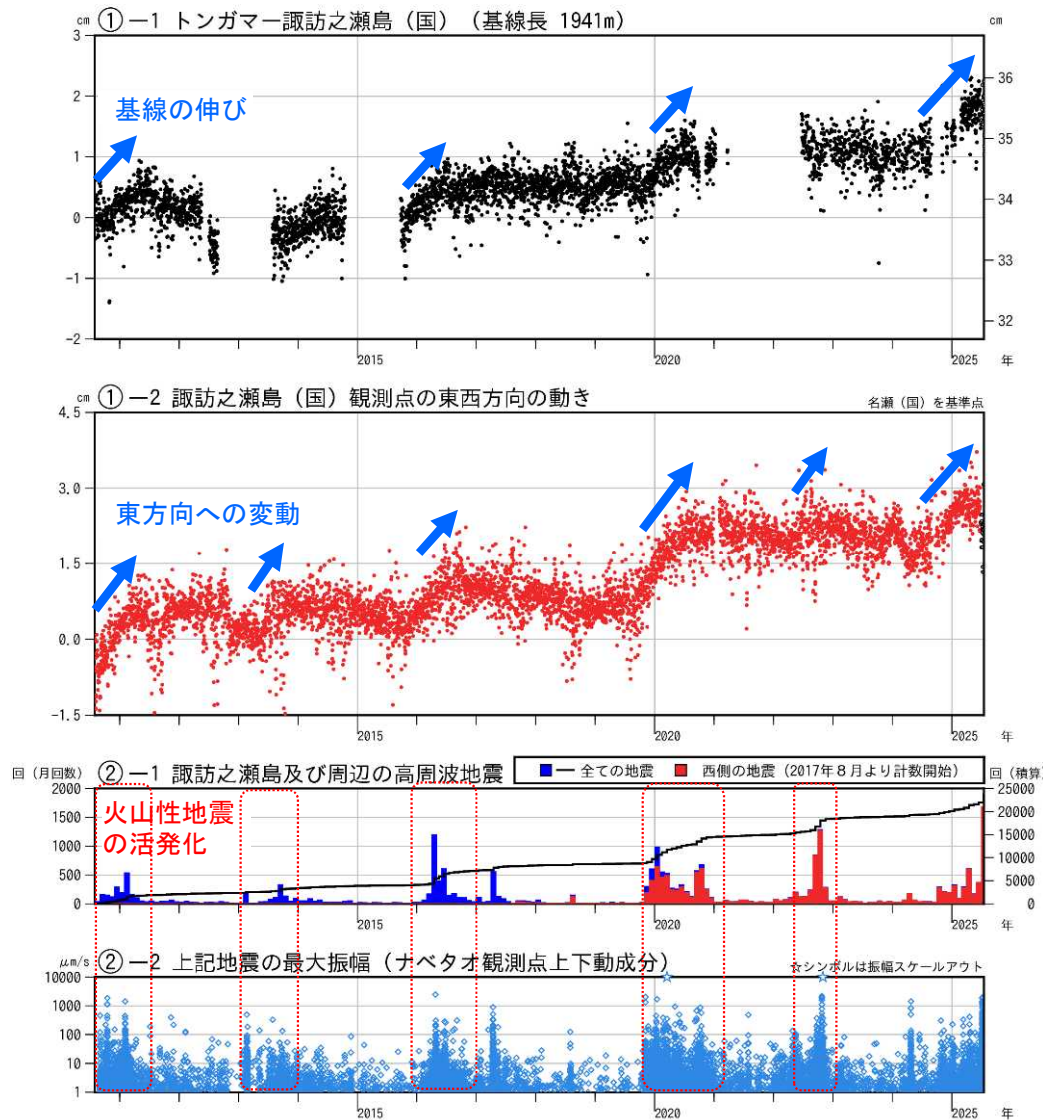
諏訪之瀬島 活動状況2

地殻変動の状況

・GNSS連続観測では、2024年10月以降、島の西側やや深部におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動が認められている。

火山性地震の状況

・島の西側で発生していると推定される火山性地震は、中長期的には、2024年10月頃から増加傾向がみられている。



GNSS連続観測と周辺の火山性地震(2010年8月～2025年7月17日)

①-1の基線は右図①-1に対応。空白部分は欠測を示す。2024年9月1日の観測点修繕工事(ナベタオ観測点)に伴うステップを補正している。

①-2は島外の観測点(名瀬(国))を固定した観測点の東西の変動を示す。

(国): 国土地理院

観測点配置図とGNSS連続観測の基線番号

GNSS基線長図(左図①-1)の基線を赤線で示す。

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国): 国土地理院、(京): 京都大学

諏訪之瀬島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

御岳火口中心から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。



この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

- : 一般道
- : 登山道
- : 御岳火口
- : 居住地域
- : レベル3の規制箇所
- : レベル2の規制箇所

用語集

- **噴石**：気象庁では、噴火によって火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでいる。火山に関する情報では、防災上の観点から、「大きな噴石」および「小さな噴石」に区分して使用する。
 - ・大きな噴石：概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散する噴石のこと。
 - ・小さな噴石：直径数cm程度の、風の影響を受けて遠方まで流されて降る噴石のこと。
- **火砕流**：噴火により放出された破片状の固体物質と火山ガス等が混合状態で、地表に沿って流れる現象のこと。火砕流の速度は時速百km以上、温度は数百℃に達することもあり、破壊力が大きく、重要な災害要因となりえる。
- **空振**：噴火などによって周囲の空気が振動して衝撃波となって大気中に伝播する現象のこと。空振が通過する際に建物の窓や壁を揺らし、時には窓ガラスが破損することもある。火口から離れるに従って減速し音波となるが、瞬間的な低周波音であるため人間の耳で直接聞くことは難しい。
- **火山性地震**：火山体またはその周辺で発生する地震のこと。マグマの動きや熱水の活動等に関連して発生するものや、噴火に伴うものもある。火山によっては火山活動が活発化すると多く発生する傾向がある。
- **火山性微動**：火山体またはその周辺で発生する火山性地震よりも継続時間の長いもの。地下のマグマや火山ガス、熱水などの流体の移動や振動が原因と考えられるものや、微小な地震が続けて発生したことによると考えられるものがある。火山活動が活発化した時や火山が噴火した際に多く観測される。
- **火映**：高温の溶岩や火山ガス等が火口内や火道上部にある場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象のこと。一般には夜間に観察される。
- **赤熱**：高温の溶岩や噴気孔が赤く見える状態、あるいは現象のこと。
- **GNSS連続観測**：GNSS(全球測位衛星システム: Global Navigation Satellite Systems)の受信機を用いて連続的に地表の動き(地殻変動)を測定する観測。火山内部のマグマの動きを推定するために利用される。
- **爆発**：噴火の一形式。桜島や霧島山など、「爆発」の用語が地元で定着している場合には、爆発地震の有無、空振の大きさ、大きな噴石の飛散距離などの条件を満たす噴火について、「爆発」を使用することがある。

✓ 気象庁が噴火警報等で用いる用語集はこちらからでも確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

噴火警戒レベルの判定基準リンク集

(主に警報発表火山のみ)

■ 阿蘇山

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/503_level_kijunn.pdf

■ 霧島山(新燃岳)

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/551_level_kijunn.pdf

■ 桜島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/506_level_kijunn.pdf

■ 薩摩硫黄島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/508_level_kijunn.pdf

■ 口永良部島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/509_level_kijunn.pdf

■ 諏訪之瀬島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/511_level_kijunn.pdf

✓ こちらで全国の噴火警戒レベルの判定基準とその解説が確認できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html